

## 令和4年度 第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会会議録（要旨）

**日時** 令和4年12月15日（木） 午後1時30分開始 午後3時30分終了  
**場所** 高岡の森弘前藩歴史館 映像・講話室  
**出席者** 瀧本 壽史 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長  
小山 伸吉 委員 葛西 修造 委員  
工藤 利彦 委員 神 怜奈 委員  
席 子昕 委員（7名）  
**欠席者** なし  
**事務局** 館長 吉崎 拓美、館長補佐 古川 五月、運営係長 相澤 智香子、  
主査兼学芸員 澁谷 悠子（4名）

---

### 次 第

1. 教育長挨拶
  2. 組織会
  3. 第1回協議会会議  
案 件
    - （1）令和3年度事業報告について
    - （2）令和4年度事業経過報告について
    - （3）令和5年度事業計画について
- 

1. 教育長挨拶
2. 組織会

委員の互選により、委員長は瀧本壽史委員、副委員長は島内智秋委員に決定。

3. 第1回協議会会議

**事務局** 令和4年度第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会に入らせていただきます。  
会議の議長は、歴史館管理運営規則第3条第2項により委員長が務めることとなっておりますので、瀧本委員長に議事の進行をお願いいたします。

**委員長** 今日は委員7人全員出席ということで、会議が成立しますので進めたいと思います。

**委員長** それでは次第に従って進めていきたいと思います。まず案件の1 令和3年度の事業報告を事務局からお願いします。

**事務局** 【資料に基づき事務局より説明】

**委員長** 案件1について今事務局の方から説明がありましたが、何かご意見などあればご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

**葛西委員** 流鏝馬イベントの実施前に高岡町会の会員2人でやっている草刈りの件について、発言よろしいでしょうか。  
馬場跡の部分は浅めにトラクターを入れていますが、あのような仕上がりでよろしいでしょうか。私も町会長として現場を確認し、丁寧に草刈りができているという印象をもちましたが、大丈夫でしょうか。

- 事務局** 流鏑馬イベントで実際に馬場を使用した方々に話を聞きましたが、何の問題もないということでした。馬場跡以外の通路周辺なども丁寧に草刈りをさせていただいて、気持ちよくイベントを実施することができました。ありがとうございました。
- 委員長** 大変結構であるとのことですが、草刈りはボランティアでやられているということになりますか？
- 事務局** いいえ、町会さんに業務委託をお願いしております。
- 葛西委員** 作業する会員は、当日朝 4 時頃から取り掛かって、よくやってくれていると思っておりました。
- 委員長** 他にいかがでしょうか。
- 委員長** では私から。初めての委員の方もいらっしゃるので、利用者の目標値についてお聞きします。令和 3 年度は 14,000 人とありますが、その根拠をお示しいただければと思います。
- 事務局** まず平成 30 年の開館当初、市立博物館の数値を基に設定して利用者の目標値を 24,000 人としました。減少分を見込んで、令和元年度は 20,000 人、2 年度は 18,000 人とし、コロナ禍の影響を考慮して令和 3 年度は 14,000 人としました。実績を基にした設定ではありますが、多少高い目標値であるといえます。  
ただ、令和 2 年度以降はコロナ禍が継続し、利用者の目標値を設定しづらい状況であること、また実際の入館者数は臨時休館の期間もあり、目標値への到達はなかなか難しいものがあります。  
今後の目標値の設定についても、引き続きいろいろ悩ましい点ではありますが、工夫・研究して設定していければと考えております。
- 委員長** 関連してですが、博物館利用の観点から言えば、単に入館者数だけが指標になるわけではないと思います。  
どのような活用をされたか、こちらから出向いて行ってどのように実施したのかというところも博物館の活用の捉え方として有効だと思います。入館者数だけでここを評価されるのも何か悔しいという気はします。屋外で行ったイベント参加者や、館外での出前講座の参加者なども含めて、当館の活用実態を把握するといったような柔軟な考え方ができると思います。  
この館を評価する時に、今後そのような捉え方をさせていただければと思います。
- 事務局** はい。ありがとうございます。
- 島内委員** 今お話を伺って関連していると思ったのですが、例えば入館者数などの数だけではなくて、満足度といいますか、こういう感想を持った人が何割増えたなど、イベントなどで実施したアンケートのコメントも宣伝に使えるので、利用者の声を活かすといった取り組みもいいのかと思います。  
もう一点ですが、弘前市のマスコットキャラクター たか丸くん・歴史館バージョンについてお聞きします。例えば私が宣伝したいと思った時に、名刺にこのキャラクターを入れて、高岡の森弘前藩歴史館協議会の委員を務めているという話をしながら、いろいろな方々に PR するという形で使えるものでしょうか。または、委員の皆さんにはあらかじめデータをお渡しして、そういった宣伝も兼ねて、いろんな場面で PR していただくということにも活用できるのではないかと思います。

- 小山委員** 観光の面から見て、軽薄短小になって軽いものにならないように宣伝をしていくべきだと思います。
- また、時期を合わせるということも大切だと思います。甲冑や刀剣をテーマにした展覧会時期は、岩木山観光協会への問い合わせも非常に多いです。
- そこがこちらの館の「売り」なんだろうなと思います。青森県の岩木山の麓に歴史館がありますよ、特に刀剣が見どころですというようなことを、島内委員がおっしゃったように我々(委員)も宣伝をしていく必要があると思います。名刺は簡単に作れるので、それは検討していただいた方がいいかもしれません。もっと宣伝した方がいいと思います。
- 委員長** いかがでしょうか。今、建設的な意見が出されてきました。
- 観光大使ではないですけど、名刺に限らずいろんな人と会う場面であることができるかと思います。
- 小山委員** もう一つ。今年少人数でしたが、歴史館に私どもがツアー客をお連れしたことがありました。そこで参加者の方の反応を見ていて感じましたが、刀剣のあたりには非常に食い入るようになっていたり、絵馬なども興味深く見ていた様子でしたが、テーマによっては一部の参加者の関心が薄いような反応も残念ながら見えました。特に弘前藩主の話題は歴史的な系図をしっかりと把握しなければ難しすぎた面もあったのかもしれませんが。それでも、中には後で今度じっくり見にこようかな、とおっしゃる方もいましたけれど。
- 入館者数を増やすとすれば、お客様が関心を持つことが多い流鏝馬や甲冑などをどのようにして打ち出すかということではないでしょうか。鍵となるものはいろいろあるかとは思いますが。
- 委員長** 今、小山委員、島内委員からお話しがありましたけれども、事務局の方で何かありますか。
- 事務局** マスコットキャラクターたか丸くん歴史館バージョンの活用については、もっと広くできないかどうか今後検討していきたいと思います。
- そして、小山委員からのご意見にありました、例えば流鏝馬などのイベントを上手く売り込むということに関して観光の分野、例えば岩木山観光協会さんとも連携しながら打ち出せればと思います。
- 委員長** やはり、「歴史館」と聞いてポツと思いつかぶものってありますよね。ここにはいろいろな歴史・美術工芸資料がありますけれど、ポツと浮かぶものというものはやはり大事にしていきたいなと思います。
- それからもう一つ。島内委員からお話しがあったアンケートの件です。これは評価のところに随分つながっていくものかなと思ひまして。この話題は昨年度も出ていたかと思ひます。例えば、常設展を見て、入館者がどのような感想を持ったかというアンケートです。イベントばかりではなく、幅広く意見を聞くようにしていただければと思います。
- アンケートは簡単に集計できるような方法があります。100%回収する必要はなく、何人かでもいいので、それを使って引き続きご検討いただければと思います。
- 委員長** どうでしょう。他にございますでしょうか。

**工藤委員** PR の部分です。去年か一昨年か、中教研の社会科部会でこちらを見学させていただいた時、この歴史館だけではなく、高照神社そのものの魅力を改めて感じました。地域の方の捉え方もあるので簡単に観光資源だとは言えないと思いますが、高照神社の馬場跡よりも更に奥の方の廟所の付近は静寂なところで、初めて行った時にこういうところもあるのだなと思いました。高照神社には数回行ったことがありますが、奥の方まで行ったのは初めてでしたので、そういったところを見ると高照神社そのものの魅力を感じることができると思います。高照神社の境内は歴史館の駐車場として利用されていますし、神社と併せて見ていくということ、入館者数を増やしていくというところでは、考えて行ってもいいのではないかと思います。ただ、神社ですので軽々しく観光資源としてPRするというわけには行かないとは思いますが、そのように広げるという考え方もあっていいのではないかと思います。

**委員長** 葛西委員、今のお話しはどうでしょうか。

**葛西委員** 会議の後半でお話しするつもりでしたが、神社のことですのでお話しさせていただきます。

皆さんも新聞などでご存知の通り、市指定有形文化財の「高照神社文庫(御宝蔵)」修復の件です。

まず、今年の4～6月ごろから積極的に高岡町会の方へ、修復に取りかかりましょうという話をしました。町会全体で話しを進めるのも難しい面もありますので、町会の班長・役員・神社の関係者の約16人で高照神社運営検討委員会というのを立ち上げました。その中でおおまかに趣旨を固めて、市の文化財課に4～5回相談をしながら、町会全体にも2回説明をした上で神社側の方々とお話しをしました。費用の具体的な金額は来年度の6～7月頃にならなければわからないのですが、時間が空くとまた熱が冷めるというのもよくないので、まずは寄付行為のことをやりましょうということになりました。

いろいろなことがありますが、教育長さんの理解もあって、まずそこまでは進展しましたのでお知らせします。

先ほど工藤委員がおっしゃったように、私も神社と歴史館とタイアップして、やって行きたいと思っています。修復の件は、私達町会としても自主的に自分達の問題として取り組んでいます。お客さんが歴史館に来館して、神社を見て、氏子がどのように守っているのか、どうやって関わっているのかを知ってもらうのが重要だと思います。そこを接点にして、町会としてこの博物館に関わって行きたいと思っています。

修復の話についてはこれから更に詰めますけれど、私は素人ですが、SNSを通じていろいろな方からお手伝いしたいという声をいただいています。また、神社を見に来た人がやはり随分傷んでいるなということで、わざわざすぐ近くの商店に少しお金を預けているという方もありますし、直接いろいろな電話もいただいて、随分神社を心配してもらっているのだなと力強く思っています。町会からの要望として、皆様のお力をいただいて、できるだけ周知したいと思っていますので、そういったことも含めて理解していただきたいと思っています。

**委員長** はい、ありがとうございます。ここは高照神社があつての博物館、高照神社は氏子さんたちがあつての高照神社という基本的な話になってきました。高岡集落は300年続いた集落ですが、こういう形で続いているところというのは全国を見ても類例が無いわけですね。そういう点も含めて、館長さん、お話しを聞かれましたので、ぜひオブザーバーで参加するといったことができるのでしょうか。そういった様子を見て差し上げていただければ、大変ありがたいなというふうに思いました。ありがとうございました。

- 委員長** 引き続き案件2の方に移りたいと思います。今年度の途中経過までということで事務局  
お願いします。
- 事務局** 【資料に基づき事務局より説明】
- 委員長** はい、案件2の令和4年度10月末までの途中経過ということでお話しいただきました。  
案件1とも関係するところもあろうかと思いますが、何かご質問、ご意見などあればと思  
います。
- 島内委員** 冬のミュージアム5館巡りスタンプラリーについて、これはもちろん賞品ありきではありま  
せんが、少ない予算の中でやるのは大変だと思います。例えば協賛、フレンドカンパニ  
ーでもないですが、弘前市内で私達の館を応援してくれる会社はありませんかと募集し  
て、そこから品物などを提供してもらおうと。そうすると、その会社の活性化にもつながりま  
す。その会社などでもスタンプラリーを宣伝して、私たちはこういうところに協力してい  
る、となるとと思います。歴史館の自力だけではなく、そういったいろいろなところからつな  
がるということもいいのではないかと思います。
- 委員長** 賞品に招待券などもあるようですが、市内の65歳以上の方はもともと観覧料が無料で  
すよね。この場合はどのように想定していますか。
- 事務局** 応募の時にコースを選べる形になっております。A賞は招待券引換券、B賞が図録や  
絵葉書などを選択できる形で準備しておりました。  
今年度は、まずは冬の来館者数増を目指して試験的に実施しました。その利用状況も  
みながら、先ほど島内委員がおっしゃったように今後協賛を募るなど、そういったことも  
検討して、またできればと思います。
- 委員長** 協賛する方が多く出てくればいいですね。
- 神委員** 古武道のアンケート結果で、午後の体験活動の時に50歳未満の方がとても多かったと  
いうのを興味深く見ておりました。  
お客さんを呼び込みたいと思った時、大事だと思うのが親子連れです。特にお子さん  
が来た時に、その子がどうやってここで楽しめるのかがポイントだと思います。  
やはり子どもがいると、子どもだけ家に残して親が見に来るということはできません。親  
子・家族での来館になると思います。そうなった時に子どもが来て、ここの中を見て楽し  
めるかというところですが、そうしますと展示物を説明するキャプションが気がかりになり  
ます。先ほど説明が難しいのではないかというお話もありましたが、難しい人名などは  
フリガナがついていますが、それ以外はついていないようです。大人にとっては容易で  
あっても、小学4・5・6年生にとっては読めない漢字がたくさん使われています。  
読めない漢字があると、子どもはすぐに読み飛ばしてしまいます。では仮にフリガナを  
つけたとしても、子どもにとってはやや難解なキャプションが多い傾向があります。もし  
可能でしたら、例えば市立博物館で行っているような子ども向けキャプションを付ける  
というのはどうでしょうか。キャプションの横にキャラクターの絵があって、「昔の人が〇〇し  
ている絵だよ」という吹き出しがあるような、内容としては本当に簡単なもので良いと思  
います。これから段階的にでもつけてもらえれば、子どもたちが見た時に、これってこうい  
うものだ、自分たちでもわかるようになると思います。更にそういったものがありましたら、  
小学校の先生方もクラスの子どもたちを社会見学で連れてきた時、ワークシートに  
気が付いたことを記入させやすいのではないかな、と思います。

- 委員長** 多くの人に理解していただくというのは、そこに至るまでの工夫など、際限がない作業となってしまうのですが、それに向けて努力する必要があるのかな、という気はします。特に企画展の時などは、子どもたちにわかってもらえるか、子どもの年齢、何歳に合わせるのかというのもこれもまた問題になるところではありますが、是非努力していただければと思います。
- 委員長** 他にどうでしょうか。
- 工藤委員** 小・中学校の観覧実績についてお話ししたいと思います。歴史館単独の話ではないのですが、今年度本校でも5.6年生4人が来館することができたのは、市の方のバスを出していただけるというのがとても大きな要因でした。今年度は春から会議などで盛んに市の方から無料バスが出せますよ、という話しがありまして助かりました。今まで来ていなかった学校も、そういったことがあって来られているのではないかと思います。ですので、その部分は市教委としては続けていただきたいと思います。今は、どこの学校さんも遠足などを実施するにしても、バスを確保するのがとても厳しくて、例えばバスが使えないから市内の学校などは運動公園まで歩いて、それを遠足とするなどが普通になってきています。そういう面でも足を確保していただけるのは助かります。
- 委員長** 小・中学校の観覧実績が去年も今年も5校ということですが、これが多いのか少ないのかとなると、数ある中ではやはり少し寂しい気がしますね。
- 小山委員** バスにかかる費用が高いというのがありますよね。バス遠足を控えるくらいですから。
- 事務局** 現在、博物館と歴史館、れんが倉庫美術館の3館を組み合わせさせて観覧する学校さんへ、市が所有するバスや公用車を使って、無料で手配するという事業をやっています。そちらを活用して今回は常盤野小さんが来館していただいたということです。先ほどお話しがあったとおり、学校側でバスを手配するのも、燃料費を支払うということも厳しいと思われる。また、来年度も継続していきたいと考えております。学校の年間行事予定もあるかと思いますが、引き続きPRしますので、活用していただきたいと思います。
- 委員長** 来られないのであれば、こちらから行くというやり方をしているところも結構あります。出前講座は昨年度・今年度の10月までは実績なしとなっています。やるとなると大変なのはわかりますが、少しプログラムを組めるような形にして、準備していくのも一つなのかなと思います。逆に来館者の解説については、令和3年度は300日の開館日数に対して40回とかなり多いですね。40回超えるということは、1週間に1回くらいは団体への説明があるということになります。学芸員の方には大きな負担になっていて、それに加えて出前講座などというのはこれもまた負担が重くなっていくので、その辺の兼ね合いを考えながら進めていただければと思います。
- 島内委員** 今の出前講座のお話しですが、うちの短期大学部の方で「津軽を探る」という講座があります。この講座で市立博物館の学芸員の方に来ていただきました。歴史館からの出前講座となると、交通の便からもなかなか大変なので、オンライン講座という形を検討してはいかがでしょうか。大学でオンラインになった時も質疑応答まで十分にできていますから、そこを充実させて行くというのもいいのではないかと思います。

- 委員長** 今のご提案は大変いいご提案だと思います。オンラインでの講義というのは、今や常識になってしまっている感があります。例えば学芸員の方がカメラをつけながら話しをして、講義室にいる学生に届けるとかですね、そういうのも考えて行けるのかなど。小学校の方も Wi-Fi 環境が整ってきていますが、この施設はその環境面では大丈夫ですか。
- 事務局** この映像講話室は支障がないのですが、展示室はWi-Fi がつながりにくく、且つ電波も入りにくいという状況です。  
以前ある団体さんが、ネットで通信しながらその場で話している言葉の字幕を出すというのをやろうとされましたが、残念ながらうまくいかなかった、ということがありました。  
こちらの講話室と会場を結んでオンラインでやりとりするのは可能ではありますが、展示室で実際の資料をみながらの解説については、設備的に今すぐというのは難しいと思われる状況です。
- 小山委員** それから、「展示が決まった→準備した→展示が終わった→撤去した」という短めの動画を作成していただければ、当協会のホームページに貼りますよ。そういったように、よそのイベントなども貼っています。これは 2 年ぐらい前に言いましたが、当協会をどんどん使ってください、と。その貼り付けたものをピックアップする人もいます。  
「岩木山」というと、だいたいうちの協会のホームページを閲覧していることが多いようです。いろいろな質問も受けますが、とりあえず岩木山観光協会に尋ねようという形になっています。そしてこちらの館でいろいろな展覧会をやっているというのは言えますが、どんな、というと細かく説明できないので、動画や画像に頼りたいというところがあります。それがあれば見る側は満足して、じゃあ見に行こうかなとなります。
- 島内委員** 私も今の動画のお話しに賛成です。例えば DVD に収録したものを市内の小・中学校に配って、一旦学校内でそれを見て、やはり本物をみたいなどと思ってもらうという動機付けにもなるかと思っております。
- 小山委員** YouTube ベースで全然かまわないので、小さなきっかけが突破口になると思います。当協会では、こういったものをお知らせするという形で協力させていただきます。ポスターができたなら、すぐデータを送ってください。すぐに協会のホームページに貼ります。
- 事務局** ライブ配信については、以前市の国際広域観光課で海外の会社とタイアップして行ったことがあります。やはり電波状態が悪く、オンラインの通信がなかなかうまくいかなかったということがありました。ライブではなく、動画を録画、編集をして、展示の裏側の差し支えが無い部分を少しお見せしますよ、というのは可能かなと思います。
- 小山委員** 本当の導入部分でいいと思います。
- 委員長** 他館の事例では、SNS で導入部分を多く見せて、本体はホームページで詳細を見てもらうという形が多くなっています。SNS やライブ配信など、離れた人のところに伝える手段の強化が必要なのかなと思います。そうすれば、講座などでも実際に来館するという参加形式だけではなく、ライブ配信を視聴するという形の参加方法もとれるようになり、利用者の人数もどんどん増えるのではと思います。
- 委員長** はい、それではご意見、たくさんあろうかと思いますが、案件 3 来年度令和5年度の計画についてお願いします。

**事務局** 【資料に基づき事務局より説明】

**委員長** はい、ありがとうございました。  
まだ、仮の部分が多いですが、見込数については今までと同じようです。先ほど話しがありましたように、新たな手法を使ったりすれば参加者の幅をもっと拡大できるようなと思います。  
展覧会についていかがでしょうか。

**神委員** 一(いち)刀剣好きからのお願いといえますか、もし可能であればという要望です。  
夏に刀剣を目玉としてやってくださるのはとてもありがたいことです。刀剣ファンの中でも口コミ、SNSの方で徐々にですが、県外の方が歴史館に注目する流れが出てきています。ある刀剣好きの女性の方がブログをやっていて、更に刀について語るラジオをやっていらっしゃる方が県内にいらっしゃいますが、その方も歴史館に来館されて、ここを話題にしています。そして、最近気になるのは、刀剣ファンの間で刀の裏面を是非見たいという声徐々に高まってきている、という点です。他の博物館でも、刀を展示会期の途中でひっくり返して裏面を見せるということをやっています。歴史館に収蔵されている重要文化財の「太刀 銘 友成作」・「太刀 銘 真守」、特に県重宝の「刀 銘 濱部眠龍子壽實」は表面の刃文が面白いのですが、刀剣好きの皆さんは是非裏面も見たいとおっしゃっています。裏面も見せていただけるなら、裏面になった時にまた来館するというように、2回行くというお話もされています。展示替えとなると大変だと思いますが、ポスターやチラシにこの期間は裏面も見せます、としていただければ、刀剣が好きな方々は来るのかなと思います。

**委員長** そうですよ。銘があるのが刀の表面だけの場合、表面のみを展示することが多いですよ。

**小山委員** 見せ方という点ですが、やはり映像も見せ方というのが大事だと思います。例えば、ライティングが素晴らしいといった切り口を提示するだけでも、魅力が全然違って見えますよね。

**委員長** 展示では、刀を刀掛けに横に置いていることが多いですが、実際手にとって見るのは縦になった角度で見えています。例えば縦に置くといった置き方も、用具が必要になってきますが、あってもいいのかもしれないですね。  
展覧会の時期の問題としてはいかがでしょうか。観光に来る人たちのところからすると、例えば新年度に入って最初のあたりに刀剣展がくるというのは、いかがでしょうか。

**小山委員** これが秋になったからということでもあまり関係ないのではないかと思います。やっぱり呼びかけですよ。4月の頭というのはこの場所にしてみるとまだ早いですが、春の企画展の「帰ってきた高岡の森どうぶつ園」が予定されています。この6月というのは逆に他のイベントなどもあまり無い時期です。だからいいかな、という感じはしますけど。  
先ほど、令和3年度の冬は新型コロナ対策のために臨時休館となり、会期を短縮したと聞いて惜しいな、もったいないなと思いましたが、ここに入っていて安心しました。これも要するに訴え方ですよ。早い時期に市内の全小・中学校に投げ込みを行うと良いと思います。うちの観光協会ではエコ活動を行っているのですけれど、子どもが関心を持てば親たちや教員たちが動いて、行ってみよう、参加してみようというふうにつながっていく様子が見えます。

**委員長** そうですよ。ターゲットを決めて広報活動を行うのが効果的ですね。

- 小山委員** その場合には、ポスターデータをいただければ、観光協会のホームページにトピックスとして掲載しますよ。
- 委員長** せっかく小山委員からご提案いただいておりますので、事務局は是非検討してください。
- 小山委員** うちの協会を是非利用してください。
- 委員長** 他にどうでしょう。  
秋の展示には貴田家奉納絵図展が予定されています。もし余裕があったらですが、貴田家全体を知るには、東奥義塾に貴田家関係の典籍があるので、そちらも入れていただければいいかもしれません。  
来年度は約 300 日の展示会期で 4 つの企画展を予定しているとのことですが、その 4 つを学芸員 1 人が担当するのは大変な作業であります。是非、定員増を館長さんにもお願いしたいなと思っておりました。
- 小山委員** 新しいことをやろうとすると必ずお金が必要ですからね。  
イヤホンガイドで聞きたいとなると、多額のお金がかかってしまいますので。
- 委員長** 来年度は、4 つの企画展ということでなかなか厳しいところがあるかと思います。  
席さんは博物館学を専攻している大学院生という立場から、本日の話しを聞いて何か感想などはありませんか。
- 席委員** いろいろ勉強になりました。  
令和3年度はコロナの影響で休館したことがありますが、4年度の臨時休館はないという状況があります。利用者側の動向を見ると、歴史館に対する考え方はそれほど変化していないような気がします。もっと来館してもらうためには何か、ネットワークが必要ではないかと思っています。
- 委員長** はい。今、席委員がおっしゃったように、ネットワークということが出ましたが、やっぱりコロナというところから更にネットワークというのが必要になってくるのではないかということ  
です。コロナの前後で歴史館に対する考え方が変わってきたのか否かとなると、そんなに大きな変化はあまり見られないという印象を受けました。それがここの強みにはなっているのかなと思います。  
一つの要因として、これは柱がきちんとあるのかなと。その柱に対する考え方が大きく変わるものではないので、そこは非常に強いところかなと思いました。そしてその強さを作っているのは、先ほど葛西委員がお話しされた氏子さん達の方だとか神社の持つ力が大きく、その辺をずらさない、ぶれないようにしながらやっていただければなと思います。そこは自信をもって進められる博物館だと思いますので、是非その線でやっていただければなと思いました。  
他にご意見がなければ、その他に入りますが、各委員の方からありますでしょうか。よろしいでしょうか。  
それでは令和4年度の高岡の森弘前藩歴史館協議会については、以上で終了ということにしたいと思います。ありがとうございました。  
では事務局お願いします。